



高千穂大学

教育実習 調査報告

—2025年度教育実習の実態と成果—



教育実践研究A/B担当 早坂めぐみ

2025/07/12

目次



1. はじめに
2. 教育実習の目的
3. 教育実習の時間数
4. 教育実習で困ったこと
5. 事前に学んでおくべきだったと思うこと
6. 実習校で指導されたこと
7. 教育実習中の生活時間
8. 教育実習の成果
9. 教育実習前後の比較
10. 教育実習に行ってよかったか
11. 実習生から後輩へのメッセージ
12. おわりに



1. はじめに

・ 2025年度（春学期）教育実習派遣人数

実習校	実習期間	人数
小学校	4週間	2名
中学校	3週間	1名
高校	3週間	4名
高校	2週間	9名
合計		16名

・ 回収率

実習前調査 100.0%、実習後調査 100.0%



2. 教育実習の目的

- 1) 教育実習に目的をもって臨んだ→ **100%**
- 2) 教育実習の目的とは何か (複数回答可、N=16)

目的	人数	割合 (%)
自分に教員としての適性があるか、試してみたい	14	87.5
学校教育の現場に身を置いて、学校教育の実際や重要性を直接理解したい	12	75.0
学校(小・中・高)という職場の人間関係を知りたい	6	37.5
実際に児童生徒の中に飛び込んで、大学の授業で学んだことがどれくらい生かせるか、試してみたい	4	25.0

3. 教育実習の時間数



・1) 授業観察の時間数 (単位:コマ)

	最小値	最大値	平均値	備考 (昨年度の平均)
小学校 (N=2)	27	73	50.0	65.0
中学校 (N=1)	8	—	8.0	—
高校 (3週間) (N=4)	6	41	16.8	26.5
高校 (2週間) (N=9)	6	24	16.9	21.0

3. 教育実習の時間数



・2) 授業実習の時間数 (単位:コマ)

	最小値	最大値	平均値	備考 (昨年度の平均)
小学校 (N=2)	15	16	15.5	17.5
中学校 (N=1)	35	—	35.0	—
高校 (3週間) (N=4)	7	21	13.3	7.0
高校 (2週間) (N=9)	4	12	7.2	13.0

3. 教育実習の時間数



・3) 最初の授業実習は開始から何日目か (単位:日)

	最小値	最大値	平均値	備考 (昨年度の平均)
小学校 (N=2)	6	9	7.5	7.5
中学校 (N=1)	4	—	4.0	—
高校 (3週間) (N=4)	3	7	4.3	7.5
高校 (2週間) (N=9)	1	6	3.6	4.0



3. 教育実習の時間数

- 4) 最初の授業実習までに何コマ、授業を観察したか (単位: コマ)

	最小値	最大値	平均値	備考 (昨年度の平均)
小学校 (N=2)	15	43	29.0	28.5
中学校 (N=1)	8	—	8.0	—
高校 (3週間) (N=4)	3	10	5.8	15.0
高校 (2週間) (N=9)	2	17	8.1	10.5

<参考> 4週間教育実習モデル

月 火 水 木 金 土 日

1日5コマ授業観察

授業観察

教壇実習開始

1日2~3コマ授業実践

授業実践、研究授業

1日担任



※教育実習の期間に、土曜参観、クラブ活動、職員会議、放課後にプール指導のための救命救急講習、校内研修の講演会などもあった。

<参考> 3週間教育実習モデル



月 火 水 木 金 土 日

1日3コマ授業観察

教壇実習開始

1日2~3コマ授業実践

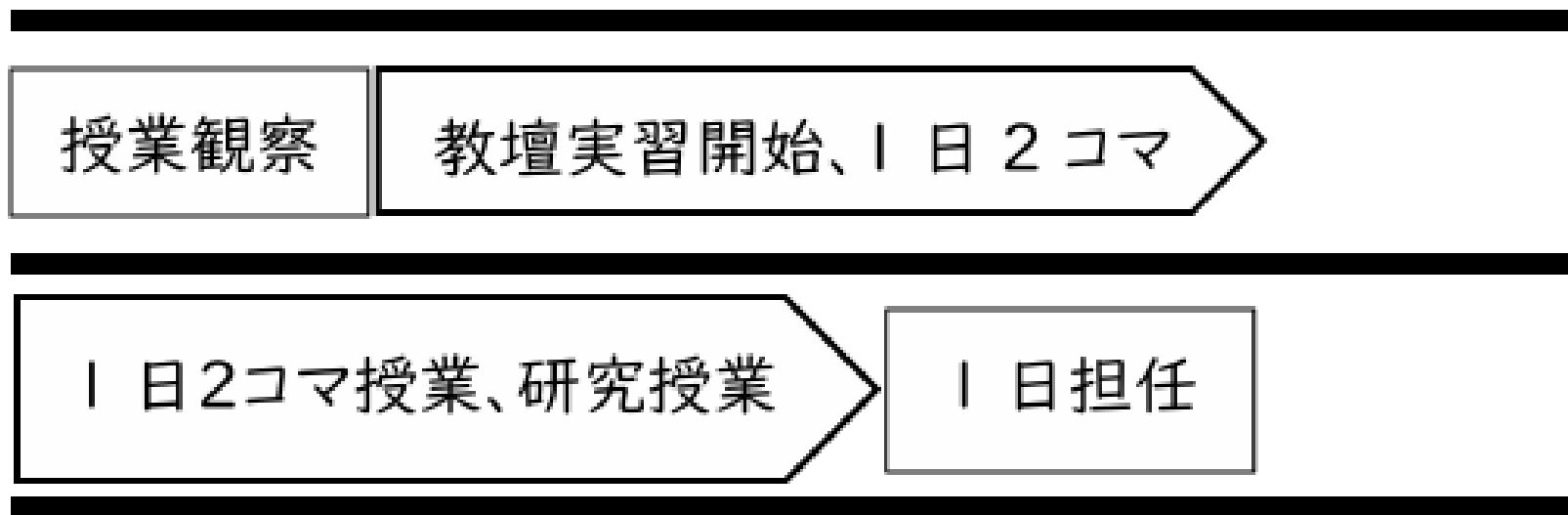
授業実践、研究授業

1日担任

※教育実習の期間に、三者面談、定期テストの返却期間、運動会、50周年記念式典、実習校の同窓会、租税教室などの行事や、職員会議があった。

<参考> 2週間教育実習モデル

月 火 水 木 金 土 日



※実習生が朝と帰りのHRを単独で担当したケースは複数件あり、早くて実習開始2日目から始まり、実習最終日まで続いた。

※教育実習の期間に、三者面談、定期テストの返却期間、運動会、健康診断、開校記念日などの行事や、職員会議、高校と外部連携のミーティング、高校と専門学校との進路指導のミーティングなどの業務もあった。

4. 教育実習で困ったこと

(複数回答可、N=16)



内容	回答者 (人)	割合 (%)
学習指導の仕方	10	62.5
正しい言葉づかい 教育実習生としてどこまで活動してよいかの判断	9	56.3
指名や発問の仕方	7	43.8
教科に関する専門知識の欠如 学習指導案の書き方 臨機応変に動くこと 板書の仕方 児童生徒に対する助言の仕方 実習校の教員とのコミュニケーション	6	37.5

<参考>教育実習で困ったこと 過去5年間のランキング



	第1位	第2位	第3位
2025	学習指導の仕方	正しい言葉づかい 教育実習生としてどこまで活動してよいかの判断	指名や発問の仕方
2024	指名や発問の仕方	教育実習生としてどこまで活動してよいかの判断 学習指導の仕方	指導案の書き方 実習校の教員とのコミュニケーション
2023	教育実習生としてどこまで活動してよいかの判断	教科に関する専門的知識の欠如 指名や発問の仕方	学習指導の仕方 板書の仕方 授業中に児童生徒の注意を自分に向けさせること
2022	学習指導の仕方 指名や発問の仕方	教育実習生としてどこまで活動してよいかの判断 実習校の教員とのコミュニケーション	教科に関する専門的知識の欠如 板書の仕方 学習指導案の書き方
2021	教科に関する専門的知識の欠如	学習指導の仕方	指名や発問の仕方 板書の仕方 教育実習生としてどこまで活動してよいかの判断

5. 事前に学んでおくべき だったと思うこと

(複数回答可、N=16)



内容	回答者 (人)	割合 (%)
正しい言葉づかい	10	62.5
教科に関する専門的知識	9	56.3
説明するときの間の取り方	8	50.0
学習指導の仕方 学習指導案の書き方 児童生徒に対する助言の仕方	7	43.8

※次に、指名や発問の仕方、板書の仕方、臨機応変な対応、ICTの使い方などが続きました。



<参考> 事前に学んでおくべきだったと 思うこと過去5年間のランキング

	第1位	第2位	第3位
2025	正しい言葉づかい	教科に関する専門的知識	説明するときの間の取り方
2024	学習指導案の書き方	教科に関する専門的知識	学習指導の仕方
			指名や発問の仕方
			正しい言葉づかい
			児童生徒に対する助言の仕方 対する助言の仕方
2023	教科に関する専門的知識	教育実習生としてどこまで活動して よいかの判断	学習指導の仕方
			指名や発問の仕方
			板書の仕方
2022	指名や発問の仕方	教科に関する専門的知識	板書の仕方
			学習指導の仕方
			学習指導案の書き方
			授業中に児童生徒の注意を自分に向 けさせること
2021	学習指導の仕方	教科に関する専門的知識	教育実習生としてどこまで活動してよいかの 判断
			指名や発問の仕方
			板書の仕方

6. 実習校で指導されたこと



1) 指導案作成

① 高校 (3週間)

- 生徒観の記入に時間がかかりました。3週間という長いようで短い期間で、生徒の特徴を理解することが難しかったです。また教員側のはたらきかけの具体性や、指導の時間を記入する点について指導されました。
- 誰が読んでも伝わるように、行動を言語化することが難しく、言い回しを変えるよう、複数回、指導していただきました。
- 細かい言い回し (周知する⇒気づきのヒントを与える 等)。

6. 実習校で指導されたこと



1) 指導案作成

② 高校 (2週間)

- 指導案については、特に困った点はなかった。細かい言葉の言い回し程度の添削で、内容を大きく変更した点はなかった。
- 様式が大学で学んだものと異なっていた。
- 授業内容と指導上の留意点が混ざっていること。
- 最終的な到達目標が曖昧であったこと。
- 間違いや回りくどい表現。
- 指導上の留意点を長く書きすぎること。
- 板書計画では図を用いること。
- 大学で学んだように指導案に事細かく記載したところ、「先生方は分かっているからここまで載せなくてよい」と指摘を受けた。

6. 実習校で指導されたこと



2) 授業

① 小学校

- 児童とは年が近いというのもあって、言葉遣いがフレンドリーなのはとてもいいが、その反面、先生というよりはお姉さんみたいな感じになってしまっていると指導された。
- 「そんな」「こんな」「違和感」など、曖昧な表現を使うこと。明確・的確に指示を出さずようにしなければ児童に伝わらない。

② 高校 (3週間)

- 注目させるために声のトーンを変えること。
- 時間配分に困りました。早く進めてしまうと時間が余り、余裕を持ちすぎると、チャイムが鳴ってしまうからです。注意を受けたことは、話に抑揚をつける点でした。一定のペースで話すのではなく、伝えたい箇所を強く言うこと。
- 1つの発問にかける時間。どの問にどの程度の時間をかけるべきかクラスによって変わるため、難しかった。

6. 実習校で指導されたこと



2) 授業

③ 高校 (2週間)

- 説明する際の見線、下を向いてしまう。
- 自分に自信をもってやるようにと指導された。
- 授業での説明としゃべりは分けること。
- 無気力な生徒や授業妨害する生徒との向き合い方・注意の仕方。
- 生徒とコミュニケーションを取りながら授業を遂行すること。
- 生徒を困惑させない指示の出し方、言い回し。
- 漢字の書き順や読み間違い。日本語の書き間違い。
- 板書の仕方。
- 授業の出席確認で時間かかること。
- 言葉遣い。年齢が近い分、先生と生徒立場に線を引くことが難しくなる生徒がいるため、丁寧な言葉で説明する方が良いと指導された。
- 指名する生徒に偏りがあること。教室全体を巻き込む授業の作り方を指導していただきました。

6. 実習校で指導されたこと



3) 児童・生徒との関係

① 小学校

- ・泣いている児童や教室に行きたくない児童と関わる機会が何度かあり、対応に困った。無理に教室に連れて行って学校嫌いになったらどうしようとか考えていたら、学校やその児童にとって一番よい対処法がわからなくなってしまった。

② 高校 (3週間)

- ・教師として一線引く(寄り添いすぎない)。
- ・指導教諭からは、とにかくコミュニケーションを取ってみましょうと指導されました。積極的に会話をし、距離を縮めました。
- ・緊張もあり、距離の取り方が難しく感じました。遠すぎず、近すぎずの距離感をつかむまで時間がかかってしまいました。先生からは自分のスタイルを見つけてほしいとご指導いただきました。
- ・全員の生徒を「苗字+さん」付けて呼ぶ。

6. 実習校で指導されたこと



3) 児童・生徒との関係

③ 高校 (2週間)

- 学習が苦手な生徒に対しての接し方。その生徒の特徴や性格をしっかりと把握した上で、生徒が求める援助や適切な援助方法を考えることの大切さ。
- 教員の立場で生徒とコミュニケーションを取ることが難しかった。言葉遣いや大人(教員)としての振る舞いなどは意識するように気を付けていた。
- 生徒に平等に接すること。
- 生徒の名前と顔を覚えること。
- 授業中に生徒を注意するときの伝え方。

7. 教育実習中の生活時間

1) 教育実習期間の睡眠時間 (単位:時間)

	最小値	最大値	平均値
小学校 (N=2)	6	6.5	6.3
中学校 (N=1)	6	—	6.0
高校 (3週間) (N=4)	4	7	5.3
高校 (2週間) (N=9)	2	7	3.9

教育実習の期間が短いほど、睡眠時間が少ない。



7. 教育実習中の生活時間

2) 出退勤時間

① 小学校

- 規定は8時15分出勤、16時45分退勤だった。1、2週目は7時50分出勤、17時退勤だったが、3、4週目は出勤は変わらないが、退勤は基本17時半、遅くて19時。
- 規定は7:45～16:45で、退勤時間が最大で18:30頃。

② 中学校

- 規定では8:00から16:30だったが、実際は7:35から17:45だった。



7. 教育実習中の生活時間

2) 出退勤時間

③ 高校 (3週間)

- 平均8時から18時30分頃までだったが、授業準備などが始まると19時近くまで残ることも多くあった。
- 基本8時25分の職員会議までに間に合えば良かったが、7時30分くらいに出勤し準備を行っていた。
- 規定では8時から17時。授業準備が終わらず初週は7時から19時、実習担当の先生に注意されて二週目は7時半から17時、最終週も授業準備が多かったため、怒られる覚悟で7時19時に戻しました。

7. 教育実習中の生活時間

2) 出退勤時間

④ 高校 (2週間)

- 規定では8時から16時55分だったが、実際には8時から約19時だった。授業実習のある週では20時に退勤することもあった。
- 規定では8:30から16:30までであったが、実際には8:00から17:30ほどであった。参観授業をたくさん行った日や研究授業の前日は18:30まで勤務していた。
- 規定では8時から17時までだが、実際には7時45分から18時だった。
- 規定では7:50～16:30までだが、実際には7:50～17:00頃だった。
- 8時30分から職員会議開始で、8時に出勤しました。1週目は19時前には帰ってましたが、部活動を見始めてからは20時に退勤していました。

7. 教育実習中の生活時間



2) 出退勤時間

④ 高校 (2週間)

- 規定では8:30から17時であった。実際には7:30から17:00や、18:00、18:30など日によって異なった。
- 定時は8:30から17時でしたが、基本的に7:30には出勤し、18時前後に退勤していました。
- 8時出勤、17～18時半に退勤。日誌が書き終わり次第退勤していました。
- 規定の勤務時間では8時30分から17時までだが、実際には8時～18時過ぎまでの勤務が多く、授業実習や研究授業準備が重なると、7時30分から22時30分まで勤務していた日もあった。

8. 教育実習の成果 (N=16)



9割以上が肯定的な回答

	強く そう思う	やや そう思う	どちらとも言 えない	そう思わない まったくそう思わない
自分自身の学習に真剣になった	68.8	25.0	6.3	0.0
教育問題について関心が強くなった	68.8	31.3	0.0	0.0
相手の気持ちを考えるようになった	75.0	25.0	0.0	0.0
教員という職業についての理解が深まった	75.0	18.8	6.3	0.0

9. 教育実習前後の比較



1) 教員という仕事に魅力を感じる

実習前

強くそう思う(8人)

ややそう思う(4人)

あまりそう思わない(3人)

実習後

—強くそう思う(7人)
あまりそう思わない(1人)

—強くそう思う(3人)
ややそう思う(2人)

—ややそう思う(1人)
どちらともいえない(1人)
あまりそう思わない(1人)

実習によって教職の魅力は…

Up ↑ 5人
維持👉 10人
down ↓ 1人

9. 教育実習前後の比較



2) 教員という仕事は自分に適している

実習前

強くそう思う(3人)

ややそう思う(7人)

あまりそう思わない(5人)

実習後

—強くそう思う(1人)
ややそう思う(1人)
まったくそう思わない(1人)

—強くそう思う(5人)
ややそう思う(2人)
どちらともいえない(1人)

—どちらともいえない(4人)
あまりそう思わない(1人)

実習によって
教職適性に関する
自己評価は…

Up ↑ 9人
維持👉 4人
down ↓ 3人

9. 教育実習前後の比較



3) 将来、教員という仕事を希望している

実習前

実習後

強くそう思う(5人)

—希望している(5人)

ややそう思う(4人)

—希望している(3人)
わからない(1人)

あまりそう思わない(4人) —希望している(1人)
わからない(2人)
希望しない(1人)

わからない(3人)

—希望している(1人)
わからない(2人)

実習によって…

教員になりたくなった 5人
高い教員志望度を維持 5人
実習を経てもわからない 5人
教員を希望しない 1人

10. 教育実習に行ってよかったか



行ってよかった
100%

N=16

行ってよかった(16人)
行かなければよかった(0人)
どちらとも言えない(0人)

10. 教育実習に行ってよかった理由



小学校

- 大学の講義だけでは分からなかった現場の雰囲気や教員のやりがい、大変さなどを味わうことができたから。
- 実習校に恵まれたからか、いい経験だったと思った。自信がついたり、社会組織についても学べた。

中学校

- 教員という仕事に魅力を感じたから。

高校

- 学校現場を身近で感じられたため。
- 学校教育の現場を教員側の立場から自分の目で見ることができたため。教師という仕事の良い面も悪い面もリアルに見ることができ、もし教員として働いた際にどういった業務を行うのか、どのような生活リズムになるのかなどを具体的にイメージできた。

10. 教育実習に行ってよかった理由



高校

- 学校という組織の重要性、大変さ、実態を見ることができた気がするから。
- 何よりも、高校生の学びや、活動、進路等に直接、関わられたという点です。人の人生に寄り添える。分岐点とも言える高校生達の人生においての成長を肌で感じることができました。そして、授業をしたことがすごく楽しかったです。生徒の反応や、自分の弱点の発見、良い事、悪い事、全て経験になりました。
- 教員の仕事はとても大変でいわゆるブラックと聞いていたため、やりがいも何も知らない状態の実習前は教員を辞めたいと思っていた。しかし、実習後は大変さは確かに実習を通して体験したがその分のやりがいや生徒との会話をすることの楽しさ、大切さを知ることが出来たから。
- 目的が達成できた他、高校在学中は知る事ができなかった教員の仕事の裏側の部分、先生方の偉大さや、やり甲斐、生徒との関係性を学び得る事ができたからです。

10. 教育実習に行ってよかった理由



高校

- 教育現場でしか分からない生徒との距離感や授業中の生徒の反応などを知ることができたほか、生徒とのコミュニケーションをとっていくうちに仲が深まり、生徒のほうから親しみを持って接してくれるようになったことが非常にうれしかった。授業準備（研究授業を含む）や指導案の作成を睡眠時間を削って行ったことや、時には厳格な指導を指導担当の先生にいただくこともあったが、自分自身が生徒に寄り添った授業を考える良いきっかけになった他、自分自身が成長するとても良い期間となった。また、朝と帰りのホームルームや学級日誌の記入など貴重な経験もさせていただき、一生心に残る教育実習となった。
- 実際に教員の仕事を体験したことで、大変なことや楽しいことを、身をもって感じることができたから。
- 現場がどのような雰囲気なのかを感じることもできたため。

10. 教育実習に行ってよかった理由



高校

- 教員としての適性があるか、現場が実際にはどのようなになっているのか知ることが出来たから。
- 大変なこともたくさんありましたが、生徒から「先生生きて!」と声をかけてくれたり、「ここがわかりません・・・」と頼りにきてくれたりと先生の活力ってこういうところから生まれるんだろうなとたくさん感じる事ができたからです。
- 実習が終わって、達成感があるのはもちろん絶対に教師になりたいという思いが強くなったため。2週間弱経っている今も終わってしまった寂しいという気持ちが残っているため。
- 人としてかなり成長できた部分が多かったからです。また、教員という職業がどのようなものなのかも知ることが出来たからです。
- 教員(教師)として、学校に携わることをし、授業やその他の業務を通して、実務に対する理解ややりがいを見つけることができたから。また、2週間という日々があっという間に感じ、それほど充実した実習を行っていたと感じたから。

11. 実習生から後輩へのメッセージ



・小学校

なんとかなります！

失敗しても児童が助けてくれるし、
笑い声や元気な姿にきっと毎日救われます。

不思議と4週間終わってしまっている
ものです。

そして何より協力戦。

みんなで乗り越えよう。

11. 実習生から後輩へのメッセージ



・高校(3週間)

とにかく自分のスタイルを貫き通しててください。色々な方から話をされるとは思いますが、あくまでも自分が成長していく判断材料に過ぎません。

その中から自分が良いと思ったものだけを選択して、自分の意志を信じるのが大切です。

きっと人生で一番辛い期間だと思っています。私もそうでした。しかし、その中でも自分の中で楽しさを見出したり、やりたいことを積極的に挑戦してみてください。そうすれば辛いだけではなく、様々な学びのある実習になると思います。

覚悟決めてね!!!

1. 実習生から後輩へのメッセージ



・高校(3週間)

大変なことも、緊張することも、しんどいと思うこともきっとたくさんあります。それでも実習を乗り切ったあとには「楽しかった」「行ってよかった」と思える瞬間もたくさんあります。

人生の中でなかなか経験できるものではないので、生徒とたくさん関わって思い出をたくさん作って人とのつながりを感じてほしいと思います。

本当に学校によって違うからなんともいえないが、生徒とも先生方とも元気に明るくコミュニケーションをとれば楽しい実習になると思います！

がんばれ！

1.1. 実習生から後輩へのメッセージ



・高校(2週間)

教育実習に対して不安に思っている方が大抵だと思いますし、自分自身も不安で押しつぶされそうでした。

ただ、やらないで後悔するより、やってみて失敗するほうが今後の自分自身の経験にも繋がるはずです。やらないことが一番いけないです。2・3年生まだまだ時間がありますので、今からできることを少しずつやっておきましょう。時に教材研究は命を削ってでもやるべきだと思います(いくら知識があっても足りません)。

また、高千穂大学の良さである小規模授業の特徴を活かして模擬授業を繰り返したり、教職課程委員会の先生方や他の教育実習を終えた先輩方に相談してみてください。

皆様の教育実習がよりよいものになることを心から願っています。

1. 実習生から後輩へのメッセージ



・高校(2週間)

授業に対する勉強も必要ですが、それだけに夢中になるのではなく、しっかりと生徒と関わる時間を作ってあげることが重要だと思います。

そんなに気構えず、気楽な気持ちで頑張ることが重要だと思います。

大学で学んだことがそのままそっくり実習に活きるとは限りません。

大変な事、辛い事、沢山あります。慣れない学校現場で考え、臨機応変に対応し、その場その場に適した言動を選択する必要があります。

ですが、それと同時に教員として現場に飛び込む事でしか知り得ないことも沢山あります。

上手く先生方・生徒とコミュニケーションを取り、有意義な実習にしてください。

1. 実習生から後輩へのメッセージ



・高校(2週間)

最終的に教員になる・ならないに関わらず、社会人として働き出した際のスケジュール感も肌で知ることができる良い機会かと思います。自分が学校現場や会社で働くときのイメージも考えながら、実習に取り組んでみてください！応援しています。

教員を目指している学生にとっては、本当に楽しい2週間になると思います。

大変さがありますが、それ以上に楽しさがあるので、ぜひ楽しんでください。

あっという間なので怖がらなくて大丈夫。

大変ですが、楽しいと思うので、楽しんでいってください。

12. おわりに—教育実習の効果



- すべての教育実習生が目的をもって教育実習に臨み、「教育実習に
いってよかった」と感じている。
- 多くの教育実習生が何らかの困難に直面したが、それによって自身の
課題に気づくことができた。
- 教育実習は、実習生にとって教職や学校の現実を体験的に学ぶ機会と
なった。その体験を通して、実習生は、教職の魅力や大変さ、自身の
教職適性について考えた。
- 教育実習を通じて、学習に対する意識や他者への配慮、教育問題に対
する関心が増した。教育実習前よりも、自分の考えや思いを豊かに表
現できるようになった。

教育実習生を受け入れ、ご指導くださった学校現場の先生方に
心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。